学校番号	3001

令和２年度　バイオサイエンス科

教科	農業	科目	農業と環境 （座学）	単位数	３のうちの １単位	年次	１年次
使用教科書	「農業と環境」　（農文協）						
副教材等	「農業と環境」　（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「農業」に関する基礎的な科目です。
１）農業に興味をもって、自ら野菜や作物を栽培方法や加工までの考え方や知識を身につけよう。
２）農業によって人間生活が支えられていること，農業と環境が密接に関係していること，農業の今後の展望や課題などが取り上げられており，さまざまな観点から農業を捉えられるように積極的に取り組もう。

２　学習の到達目標

１）農業や環境に関する興味・関心を喚起させ，生徒の科学的思考と問題解決能力を育み，農業の各分野で活用できるよう自分なりの考えをもち、堂々と発表できる。
２）農業生物の育成や環境調査などの体験的・探究的な学習を通して，農業や環境に関する基礎的・基本的な知識と技術が習得できる。疑問点を自分で工夫し、調べることができる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	前向きに栽培･飼育管理を実行し、定期的･継続的に調査･観察･記録する意欲と態度を身につける。	基礎的な知識・技術をもとに適切な処置を行い、科学的･合理的な管理を行う判断力をつける。	授業のポイントを掴みつつ、板書を写し、メモ書きする習慣をつける。	それぞれの項目の暗記ではなく、ポイントを掴み、理解するまで取り組ませる。
評価方法	①技術技能 ②積極性 ③実習への集中力	①質問に対する答えの内容 ②座学ノートの状況	①実技試験 ②生産物に対する評価	①定期考査において確認

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
Ⅰ	栽培と飼育の基礎	1　農業･環境学習とは何か 2　農業と環境の学び方 3　作物の特性と栽培のしくみ (1)生活の中の作物 (2)作物の自然分類 (3)作物の一生と作物栽培 (4)たねと発芽･たねまき (5)成長のしくみと管理	○	○	○	○	a:　自分なりのノートを作る b:大事なところでの発問に対して受け答えできる c:プリント・板書・説明をバランスよく「見て、書いて、聴く」 d:結び付けて理解する	･授業準備 ･姿勢 ･集中力 ･発問に対する受け答え
Ⅱ		第 2 章　私たちの暮らしと農業･農村 1　人間と植物･動物とのかかわり (1)太陽エネルギーを地球にとどめる植物 (2)生物の生命活動のエネルギー (3)生物の世界のつながり (4)とぎれることのない物質のつながり 2　農業と自然･社会とのかかわり (1)人間と農業 (2)世界の農業･食料 (3)世界の農業･環境 (4)生物多様性の保全と利用 (5)自然環境と調和した農業へ 3　日本の農業･農村と食料供給 (1)日本の農業を支える自然環境 (2)日本の農業･農村の姿 (3)日本の農業生産技術の特色 (4)食料の流通･消費と食品産業	○	○	○	○	a:関心の少ない項目であるが、積極的に取り組む b:聴く一辺倒にならないよう、発問を多くして、受け答えの準備をさせる c:板書・説明をバランスよく「見て、書いて、聴く」 d:今後必要となるシステムを理解する	･授業準備 ･姿勢 ･集中力 ･発問に対する受け答え
Ⅲ		①大気汚染 ②水質汚濁･土壌汚染 ③環境汚染を防ぐ取り組み ④ごみ処理･上下水道整備 ⑤食品の安全 ⑥働くことと健康 ⑦働く人の健康作り	○	○	○	○	a:現在取り巻く環境を知ることを、重要課題として取り組む b:身近な環境問題に関する問いに対して積極的に受け答えする c:板書・説明をバランスよく「見て、書いて、聴く」 d:環境問題に、これまでより関心を多くもたせる	･授業準備 ･姿勢 ･集中力 ･発問に対する受け答え

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。